

2019年2月20日
千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR部**2019年3月期 第3四半期決算・電話会議説明要旨 (2019年2月13日発表)****スライド2 ページ・ハイライト**

- 第3四半期決算は195億円の赤字。この理由は、スケジュール順守を目的として米国キャメロン LNG とインドネシアのタンゲー LNG プロジェクトで追加コストを計上したこと。
- 今回の追加コストを顧客に負担頂くべく交渉中のため、通期予想を据え置く。
- 米国ゴールデンパス LNG プロジェクトの受注。当社を含めた3社ジョイントベンチャーの受注金額は約1兆円。当社の受注高に関しては、参画方法がこれまでの LNG プロジェクトと異なるため、監査法人が現在査定中で、概ね約3,000億円になる見込み。受注計上は第4四半期。
- 中期経営計画の見直しは概ね計画通りに進捗。リスク管理の強化については、昨年12月に戦略・リスク統合本部設立準備室を設置し、今年1月からはリスク管理専門の外部人材登用も開始。財務体質強化については、昨年11月に説明の通り筆頭株主の三菱商事を含めたステークホルダーと協議中。

スライド3 ページ・業績概要

- 受注高は3,904億円。完成工事高は3,061億円。純利益は1,282億円の赤字。

スライド4 ページ・受注高

- 海外2,106億円、国内1,798億円の合計3,904億円。主なものは、米国エチレンと、国内のバイオマス、蓄電池システム建設等であり、これらに加えゴールデンパス LNG の受注が第4四半期に計上される。
- 「地球環境分野」(医薬・生化学・一般化学の181億円と環境・新エネ・インフラ・その他の1,102億円の合計)の受注は1,283億円と順調。

スライド5 ページ・受注残高

- 第3四半期末で7,281億円。ここにゴールデンパス LNG が加わるため、今年度末におよそ1兆円に達する見通し。

スライド6 ページ・損益計算書項目

- 完成工事高は3,061億円で、通期予想4,000億円の約77%。
- 完成工事総利益は追加コストの影響もあって942億円の赤字。
- 販管費の136億円は通期予想の約74%で、計画通りの固定費削減策が実行できている。

スライド 8 ページ・バランスシート

- 現預金は、18 年 3 月末比 460 億円減少して 581 億円。第 2 四半期末の 2018 年 9 月の残高からは 184 億円減少したが、新規プロジェクト受注による前受金もあり、キャッシュフローに問題はない。
- 未収入金は、主にイクシス LNG の立替金増加により、597 億円。
- 工事損失引当金は第 3 四半期末で 434 億円となり、第 2 四半期末から 173 億円の増。主に今回計上した追加コストの引当による。

スライド 9 ページ・通期業績予想

- 通期業績予想に変更なし。

以 上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。